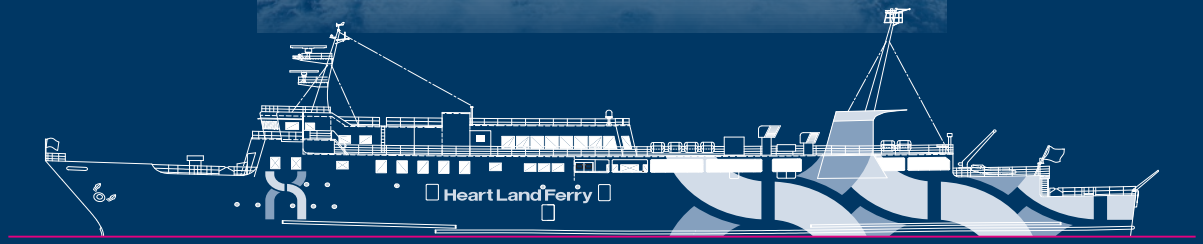


Corporate Profile

Heart Land Ferry

暮らしに、旅に、
ハートランドフェリー。

Ferry は貨客船、つまり日常の海上交通手段を意味します。
特に島と島とを結ぶ航路は、
毎日の暮らしに必要な物資を運び、地域の人々の足として機能します。
もちろん、その地を訪れる旅行者にとっても
無くてはならない存在であることは言うまでもありません。

ハートランドフェリーは、
北海道最北端の利尻・礼文両島や、南西部に位置する奥尻島への定期航路。
島に暮らす人々の暮らしを支える生活航路として、
また、四季を通じて北の大地を訪れる旅人たちの海の交通として、
昭和 9 年の創業以来、たくさんの人の心をつないできました。
その姿勢はこれからも変わらず、私たちはいつも島の人たちと向き合い、
旅行者との温かいふれあいを忘れないフェリー会社であり続けます。

3つのHで、つなぐ・つながる。

一つ目の「H」は北海道。
北の大地で生まれ育ったハートランドフェリーは、離島住民の生活航路であり、自然豊かな北海道を訪れる人の観光航路です。

二つ目の「H」はハートフル。
これは、私たちの気持ちそのものです。お客様をお見送りする時とお出迎えする時、船の仕事に携わる私たち全員が、温かな心で接しています。

三つ目の「H」はホスピタリティ。
快適な船旅を演出する船体設計や、船内やターミナルのユニバーサルデザインなど、お客様への思いやりを最優先で考えています。

北海道の離島を温かく結ぶ。

ハートランドフェリーの航路は主に２つ。北海道最北端の街である稚内と利尻島・礼文島を結ぶ航路と、南西部の江差町と奥尻島を結ぶ航路です。
最北の離島、利尻・礼文は自然の宝庫として全国的にも有名な観光スポット。利尻島には利尻富士で知られる名峰「利尻山」がそびえ、訪れる人を出迎えてくれます。礼文島は、レブンアツモリソウなどの固有植物が群生し、季節に応じて美しい草花が咲き揃う島です。
また、奥尻島は山海の幸と自然が造り出す造形美を楽しめる島として人気があります。

■お客様の安全な船旅を確保するために、安全方針を定めています。

海上運送法の規定に基づく「安全管理規程」の安全方針

一、関係法令の遵守と安全優先を原則とする
一、安全マネジメント態勢の継続的改善を実施する
一、確実な事故情報の伝達と迅速かつ適切な対応を実施する
一、顕在・潜在的課題が現場からボトムアップされるコミュニケーションの確保に努める

以上、輸送の安全の確保を的確に図るため主体的に関与し社内に徹底する。

■稚内～利尻島・礼文島
人口約 35,000 人の日本最北端の稚内から、西に約 60㎞に位置するのが両島です。
●稚内～利尻（52㎞／約 1 時間 45 分）
●稚内～礼文（59㎞／約 2 時間）
●利尻～礼文（19㎞／約 40 分）

稚内支店
稚内市開運 2-7-1
TEL：0162-23-3780

■江差～奥尻島
道南の江差から、日本海を西に約 50㎞に位置するのが奥尻島です。
●江差～奥尻（61㎞／約 2 時間 20 分）

本社
札幌市中央区北３西 3-1
札幌北三条ビル 12F
TEL：011-233-8010（代表）

奥尻支店
奥尻郡奥尻町字奥尻 309 番地先
TEL：01397-2-3131

江差支店
桧山郡江差町江差港北埠頭
TEL：0136-52-1066

最北の海を航行する、人に優しい主役たち。

稚内～利尻・礼文、江差～奥尻、それぞれの航路で就航する船は、そのどれもが、地域の自然や人々とのつながりをコンセプトに名付けられ、親しみ深いものになっています。また、客室をはじめ共有スペースなどには随所にユニバーサルデザインを施すだけではなく、航海時の揺れを軽減するフィンスタビライザー装置搭載船もあります。

稚内～利尻・礼文航路の就航船 ①

サイプリア宗谷 Cypria Soya

礼文島にのみ生息するレブンアツモリソウ。敦盛草の学名は、「CYPRIPEDIUM」（サイプリペディウム）」であることにちなんで命名しました。コーポレートカラーの濃藍色と鮮やかな朝焼け・夕焼けをイメージした茜色でボディを構成。客室は、「心の旅」「大自然の優しさに目覚める旅」を基本テーマとしています。

2等優先席（バリアフリー席）
ソファータイプの席や、車椅子のままご利用いただける席があります。

1等ラウンジ席
広いスペースで、しかもリクライニングでゆったりとお過ごしいただける指定席です。

特別室
1室限定の豪華なお部屋です。窓からの景色と上質な空間をお楽しみください。

ボレアース宗谷 Boreas Soya

「ボレアース」は、ギリシャ神話で「北風の神」を意味します。北海道の最北端である宗谷地方の自然を象徴する「北風」にちなんで命名しました。お客様にくつろぎと安心感を与える心地よい最北の風が、ご乗船いただいたお客様に寄り添います。

2等優先席（バリアフリー席）
ソファータイプの席や、車椅子のままご利用いただける席があります。

1等ラウンジ席
座席の幅が広いリクライニングシートで窓からの景色も満喫できます。

1等和室
マットレスや毛布などもございますので、ゆっくりとお休みになりたい方におすすめです。

稚内～利尻・礼文航路の就航船 ②

アマポーラ宗谷 Amapola Soya

サイプリア宗谷、カランセ奥尻に続く、島の花シリーズ第３弾のフェリー。船名「アマポーラ」は、利尻島に自生する希少固有種の黄色い「リシリヒナゲシ」にちなみ、ヒナゲシのスペイン語より命名しています。花言葉は「思いやり、いたわり」で、その気持ちのままに、皆様をご案内します。

２等椅子席
船体デザインと同系色のイエローや、ベージュなどを色調にした明るくゆったりとしたシートです。

２等優先席（バリアフリー席）
一般の椅子席の他に、車椅子のままお過ごしいただけるスペースをご用意しています。

２等室
モノトーンを基調に木目を取り入れたカーペット敷きのオープンスペースです。

キッズルーム
フェリー業界初、ポケモンのアローラロコンとロコンをデザイン。各所にクッション材を使用し、お子様への安全を配慮しています。

ベビールーム
キッズルーム同様のキャラクターを採用。授乳やおむつ交換も安心してできる空間です。

ペットルーム
ケージと洗面台を備えた快適な部屋で、ペットと一緒に快適な船旅をお楽しみいただけます。

特別室　プレミアムブルー / オーシャン
ラグジュアリーな内装の洋室タイプ。ご家族や小グループでゆったりとおくつろぎいただけます。

１等アイランドビューシート
全面窓のオーシャンビューで景色を堪能。広々としたリクライニング付きチェアです。

１等和室席
セパレートされた空間で快適な船旅を。マットレスや毛布をご用意しています。

添乗員室
添乗員の方のための休憩ルームで、航海中にデスクワークができるよう、テーブルを備えています。

トラック・ドライバー室
運転手の方のための休憩ルームで、乗船中はゆっくりとおくつろぎいただけます。

江差～奥尻航路の就航船

カランセ奥尻 Calanthe Okushiri

「オクシリエビネ」は、レッドリスト登録のまぼろしのラン科の植物で、花言葉は「誠実」。この花の学名「カランセ／Calanthe」にちなんで命名しました。カランセは、ギリシャ語でカロス「美しい」アントス「花」の2語から花姿に由来し、誠実に安全に、まぼろしの花咲く美しい奥尻島へ皆様をお迎えします。

2等室（レディースルーム）
船尾側に位置し、女性の方が安心してご利用いただけます。パウダールームとつながっています。

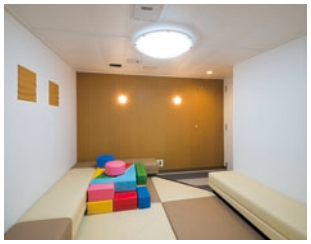
ベビールーム
赤ちゃんをお連れのお客様も、多目的シートが設置されたベビールームで安心してご乗船いただけます。

特別室 プレミアムブルー
和室タイプの特別室です。ご家族や小グループで優雅な船旅をお楽しみ下さい。

特別室 プレミアムオーシャン
洋室タイプの特別室です。リクライニングシートで、おくつろぎいただけます。

1等アイランドビューシート
フットレスト付のリクライニングシートで、オクシリブルーの美しい海を眺望しながらの船旅が満喫できます。

2等指定席
ファブリック調のレザーで落ち着いた色調の空間で、テーブル付きのリクライニングシートです。

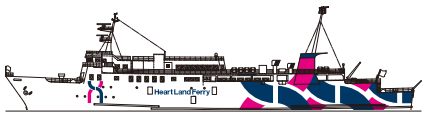


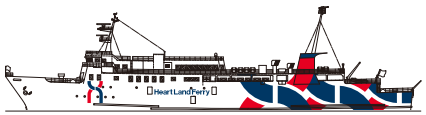
キッズルーム
小さなお子様が安心して遊べます。保護者の方がくつろげるスペースもあるので約2時間の船旅も安心です。

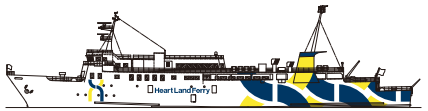
ペットルーム
明るく快適なお部屋でペットにもストレスがかからず、一緒に船旅を楽しめます。

■船のデザインについて

就航するフェリーの船体デザインは、会社のシンボルマークをパターン化しています。島と島、人と人をつなぐ絆と、未来へ向かう航跡を表現しています。また、地域を象徴する四季の自然を色のモチーフとし、1隻ごとに異なる配色を施しています。
暮らす人たちに、この地域の魅力を再発見してもらう一助となるように。また、この地を訪れた人たちには、次に訪れた時に違う色の船に乗ってみたくなるような、期待や楽しみが広がる狙いも込められています。
ハートランドフェリーは、「船体は一つのデザインで、同じカラーリングで統一する」というこれまでのフェリー会社の常識を覆し、船に乗る楽しみに、船を見る楽しみをプラスしました。

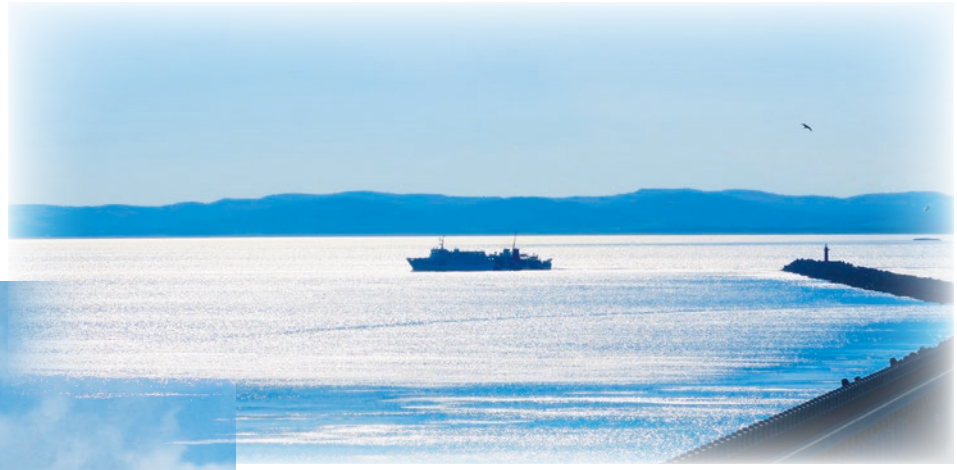

サイプリア宗谷（利尻・礼文航路）


ボレアース宗谷（利尻・礼文航路）


アマポーラ宗谷（利尻・礼文航路）

カランセ奥尻（奥尻航路）

思いやりとおもてなしの空間が、人々を迎える。

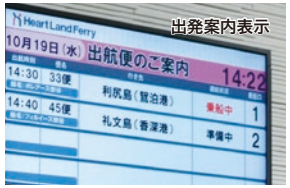


ターミナル外観

車両乗船口

ターミナル内売店

乗船口



出発案内表示

乗船口

ハートランドフェリーの稚内ターミナルは、乗船前のお客様、乗船後のお客様が寛いでいただけるように、様々な配慮を取り入れています。室内はオール電化で季節に応じて温度管理され、お子様からご年配の方まで快適に時間を過ごせるようになっています。

また、バリアフリー対策や地球環境に配慮した設計を随所に取り入れています。さらに、予約・発券・運航状況表示にも最新の技術を取り入れたり、売店では地域の特産品を取り扱ったり、お客様の利便性を考えた空間になっています。

操舵室には大海原を見つめる真剣な眼差しが

旅の始まりに真心を込めて「行ってらっしゃいませ」

出港時・入港時、プロの技 車両誘導

航海の安全を支える点検のエキスパートたち

フェリー接岸 安全の航海を終え、港にて

出港前の計器点検にも余念がない

トラックの配車予約など内勤業務は現場との連携作業

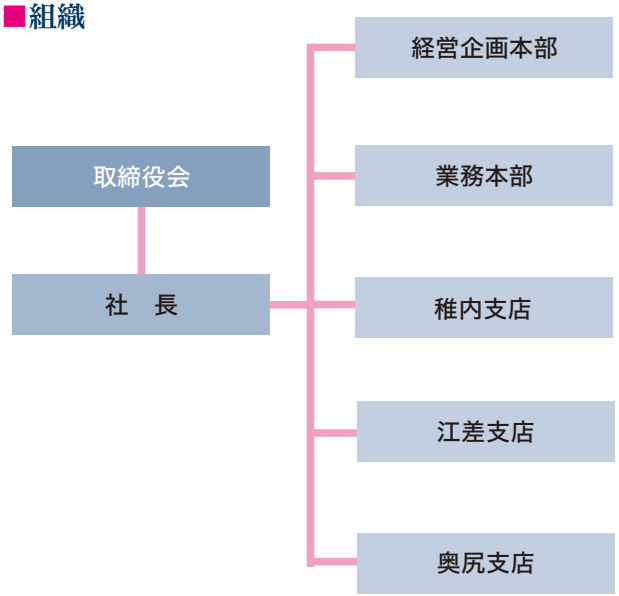
私たちは、船が好き。

出港を間近に控え、船とその周辺には独特の緊張感が漂います。操舵室や機関室では航海計器類の作動確認。車両積み込みスペースには、重量バランスを考えて車を誘導する手際良い作業員の姿があります。ターミナルの発券カウンターや乗船ゲートでは、島へ渡る人へ心を込めた接客対応。船内では、快適な航海を楽しんでいただくために、準備に余念がありません。航海、そして目的地へ。出迎えるスタッフたちが、心を込めて締め括ります。また、お客様を迎える仕事は港以外でも行われます。島へ物資を運ぶトラックの配車手配や、運航ダイヤの変更にともなう時刻表の改定など、船を離れたところで事務スタッフが真剣な眼差しを注いでいます。
ハートランドフェリーの仕事に誇りをもつ私たちは、一人ひとりが皆、船を愛しています。

■会社概要

社名	ハートランドフェリー株式会社
代表者	代表取締役社長　蔦井 孝典
設立	昭和９年７月１日
資本金	１億円
事業内容	一般旅客定期航路事業 貨物利用運送事業（内航海運）
保有船舶	旅客船兼自動車渡船４隻
グループ会社	アイビー・システム株式会社

■組織



■沿革

1934年　7月	大正14年末漁業・漁獲物運輸業経営の丸一水産組合が丸一水産株式会社となる。
1936年　4月	稚内・利礼航路甲線（稚内・鴛泊・香深間）道庁命令航路の指定を受ける。
1937年　6月	稚内利礼運輸株式会社と社名変更。
1942年　4月	乙線（稚内・船泊・沓形間）道庁命令航路の指示を受ける。
1945年　4月	丙線（稚内・鬼脇・仙法志間）道庁命令航路の指定を受ける。
1949年12月	旅客定期航路事業の免許取得及び海上運送取扱い業、不定期航路事業の届け出。
1951 年　9月	港湾運送事業の登録を受ける。
1963年　3月	決算期９月を「３月」に変更。 （30期、1962年10月より1963年３月）
1969年10月	内航海運業（運送業、運送取扱業）の許可を受ける。
1970年　4月	カーフェリー化第一船（公団船）として新造船「第一宗谷丸」就航。
1972年　2月	一般旅客定期航路事業（江差・奥尻）乗合旅客自動車運送業及び自動車分解整備事業を道南海運株式会社より譲受（旧稚内利礼運輸株式会社） 東日本海フェリー株式会社と社名変更。
4月	カーフェリー新造船「第二宗谷丸」就航。
5月	カーフェリー「第二大函丸」譲受就航。
1975年　5月	カーフェリー「第五宗谷丸」就航。
6月	本社社屋稚内市開運町に落成。（鉄骨コンクリート３階一部４階1,456平方メートル）
1976年　3月	旅客不定期航路事業（稚内・利礼）の許可を受ける。
1977年　7月	一般旅客定期航路事業（瀬棚・奥尻）の免許を受ける。
1981年　3月	カーフェリー「第七宗谷丸」譲受　利礼航路に就航。
1982年10月	カーフェリー「第八宗谷丸」譲受　利礼航路に就航。
1984年　5月	カーフェリー新造船「第十宗谷丸」利礼航路に就航。
1986年　5月	稚内より本社を札幌に移転。 カーフェリー新造船「第十一宗谷丸」利礼航路に就航。
1987年　5月	カーフェリー新造船「第五ひやま」奥尻航路に就航。
1988年10月	カーフェリー「第二宗谷丸」北海商船株式会社へ貸船。
1989年　6月	カーフェリー新造船「ニュー宗谷」利礼航路に就航。
1991年　6月	カーフェリー新造船「ニューひやま」奥尻航路に就航。
1992年　6月	カーフェリー新造船「クイーン宗谷」利礼航路に就航。
1995年　3月	カーフェリー新造船「プリンス宗谷」利礼航路に就航。
1997年　7月	カーフェリー新造船（国際資格船）「アインス宗谷」利礼航路に就航。
1999年　4月	カーフェリー新造船「アヴローラおくしり」江差・瀬棚～奥尻航路に就航。
5月	「第五ひやま」利礼航路に就航し、船名を「アインス宗谷２」に変更。 「アインス宗谷」日本・ロシア間に北海道初の国際定期航路として稚内～コルサコフに就航。
8月	天皇皇后両陛下は、北海道南西沖地震復興状態を視察のため、当社定期船「アヴローラおくしり」をお召船として、奥尻島を行幸啓された。
2000年11月	内航海運業の許可を受け、ロールオンロールオフ貨物船「リバティベル」が稚内、利尻、礼文間に不定期航路運航を開始。
2001年　5月	カーフェリー新造船「フィルイーズ宗谷」が利礼航路に就航。
2003年　5月	カーフェリー新造船「ボレアース宗谷」が利礼航路に就航。 交通バリアフリー法に基づいた、全国離島航路初のバリアフリー船。
2008年　1月	ハートランドフェリー株式会社に社名を変更。
5月	カーフェリー新造船「サイプリア宗谷」が利礼航路に就航。 稚内新ターミナル完成・供用開始。
2014年　3月	利尻富士町鴛泊にボーディングブリッジ装備の新ターミナル完成・供用開始。
2015年　3月	礼文町香深ターミナルにボーディングブリッジ完成・供用開始。
4月	稚内フェリーターミナルにボーディングブリッジ完成・供用開始。
5月	利尻町沓形ターミナルにボーディングブリッジ完成・供用開始。
2017年　5月	カーフェリー新造船「カランセ奥尻」が奥尻航路に就航。
2020年　2月	カーフェリー新造船「アマポーラ宗谷」が利礼航路に就航